

地域の要望を踏まえた野々海川水源地域整備工事への取組み

北信森林管理署 主任治山技術官

一般職員（治山） ○ 中屋 忍 諸見里 穂高

要旨

治山事業の実施に当たっては、従来から工事着手前に地元行政機関及び関係者等へ事業説明を行っていますが、野々海川水源地域整備工事については、地域の要望を反映させるため、これらの対応に加え、西大滝地区行政懇談会（以下、行政懇談会）への参加及び西大滝地区野々海川工事現場説明会（以下、工事現場説明会）を行いました。

今回の取組みにより、国有林野事業のPR等、従来型の対応から期待できる効果の強化に加え、地域内の災害危険箇所を実際に区民の目で確認することで、災害に関する危機意識の醸成を促すことができました。

はじめに

長野県の北部の飯山市と栄村の間に位置する野々海川は、野々海池から流下する東沢と、支流である西沢から成り立っています（図-1）。

野々海川には、平成23年に栄村で震度6強を観測した長野県北部地震により、流域内に多数の崩壊地が発生し、溪床には不安定土砂が堆積しました（写真-1）。

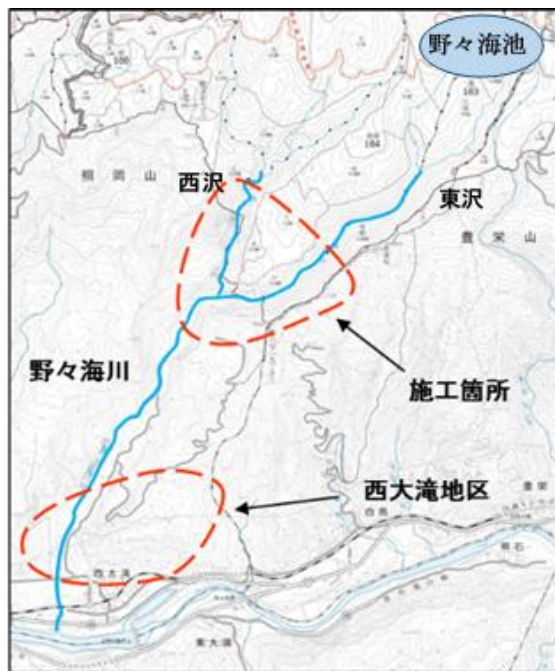


図-1：施行地の概要

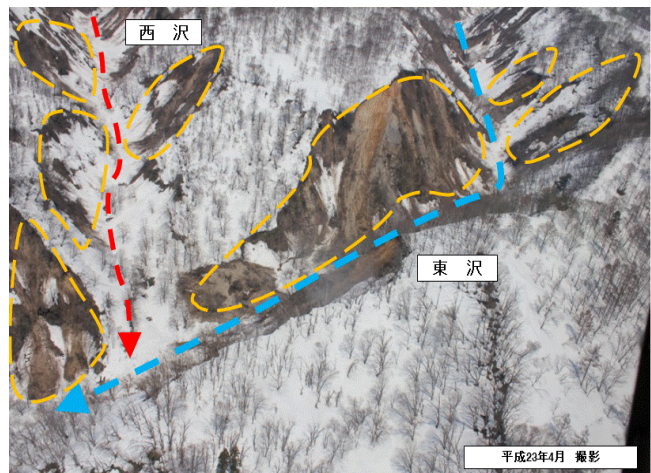


写真-1：被害状況

このことから、豪雨、融雪時において、下流の保全対象である西大滝地区への土砂流出が危惧されたこと、併せて、地域の重要な水源地域であることから、これらを保全するため、野々海川水源地域整備工事（期間：平成27年～34年）を計画・実施しています。

工事の概要として、溪間工（写真-2）を東沢に新設2基、西沢においては、昭和35年、39年既設2基の補修に加え、その間に新設2基を計画しています（図-2）。



写真-2：溪間工

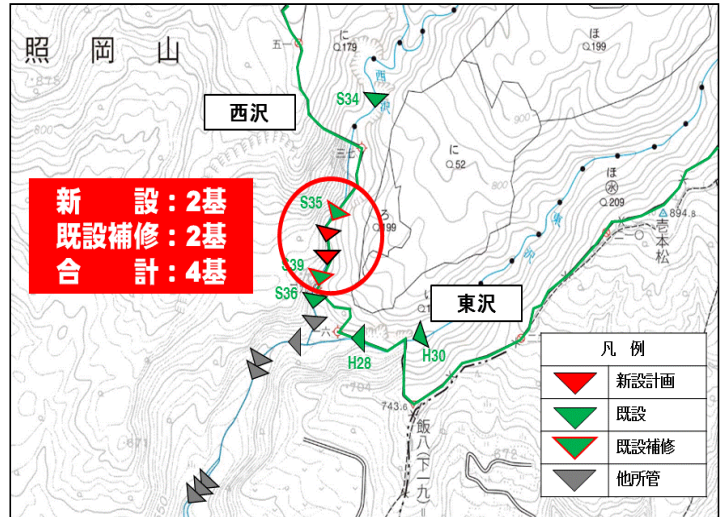


図-2：溪間工の設置状況

東沢については、平成30年に施工完了していますので、31年から34年までの計画として、西沢への施工を進めていく予定です。

従来、治山工事における工事内容の説明等の地元対応として、年度当初に地域行政機関へ、また、工事前には、地元関係者等へ事前説明を行い、更に、受注者からは、地元への挨拶及び工事説明を行っている状況です。

野々海川については、地域の重要な水源地域でもあること、また、平成29年度に、近隣の井出川上流部において地滑り性の大規模崩壊があったことから、従来型の対応に加える形で、西大滝地区行政懇談会への参加と工事現場説明会を行い、地域要望を当該事業へ反映させる取組みを行いました(図-3)。

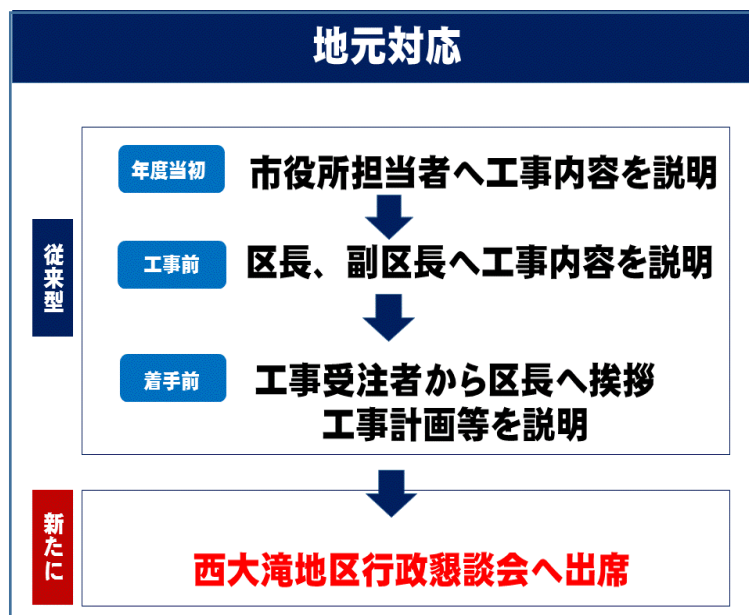


図-3：地元対応

1 取り組みの経過

平成 30 年 7 月 31 日に西大滝区集会所にて開催された行政懇談会に参加し、工事内容及び、将来計画について、概要を説明したところ、参加者の野々海川水源地域整備工事への関心の高さがうかがえたことから、平成 30 年 9 月 13 日に 30 年度施工した谷止工の箇所にて、工事現場説明会を開催し、治山工事の目的、機能、将来計画や災害の前兆等を説明しました。

2 実行結果

(1) 行政懇談会

当日は、行政機関として、長野県北信地域振興局、長野県北信建設事務所、飯山市役所が出席し、西大滝地区からは、一般区民約 30 名の出席がありました（写真-3）。

参加者からは、「施設の状態（損傷の程度など）を知りたい」、「将来の計画について詳細を知りたい」等、多くの要望が寄せられました。平成 29 年に近隣の井出川で発生した山腹崩壊災害等の影響もあり、参加者の野々海川水源地域整備工事に対する関心は高いことが判明しました。



写真-3：行政懇談会の様子

(2) 工事現場説明会

当日は地元行政機関として飯山市役所が出席、西大滝区からは 10 人程度の参加者がありました（写真-4）。



写真-4：工事現場説明会の様子

工事現場説明会を終えて参加者からは、「自分たちの住む上流で行われている治山事業について知ることができ有意義だった」、「野々海川の危険性について確認する事ができた」、「防災減災の面から継続的に治山工事をお願いしたい」等の意見、要望が寄せられたことから、主に地域防災の観点から治山工事に強い関心を持っていることが判明しました。

3 考察

今回、行政懇談会及び工事現場説明会を行ったことで、従来からの①「地域における治山工事の見える化」や、②「治山事業に対する地元住民の意見や要望の把握」、③「過去の災害事例や教訓等、地域特性の情報収集」や、④「国有林野事業のPR」の効果を、より一層強化することができ、加えて、地元住民の災害に関する危機意識の醸成を促すことができました（図-4）。

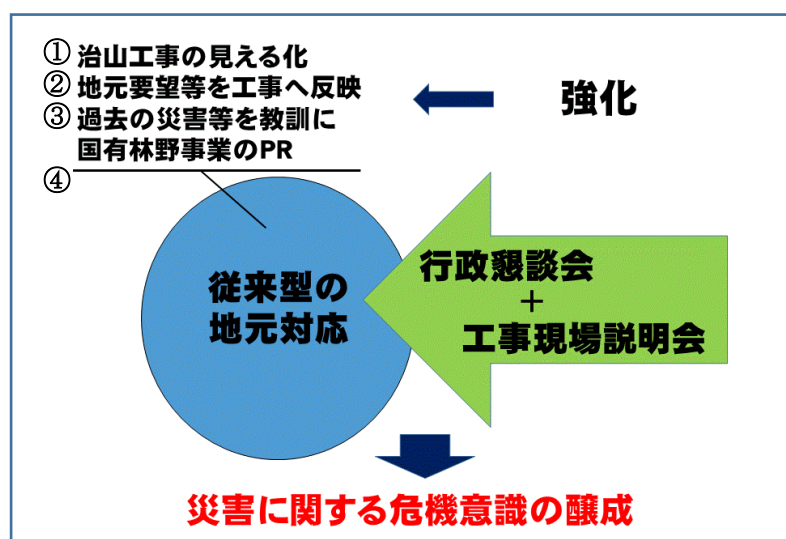


図-4：行政懇談会及び工事現場説明会を行ったことで得られた効果

おわりに

行政懇談会への参加及び工事現場説明会の開催は、国有林野事業のPR等、従来の対応から期待できる効果に加え、地域内の災害危険箇所を実際に区民の目で確認することで、災害に関する危機意識の醸成を促す効果が期待できるとともに、地域と国有林との結びつきを、より一層強固なものにすることができると考えます。

以上のことから、今回の取組みを契機に、今後もより地元と一体となり、地域の安全安心の向上に結びつく治山事業の推進に努めていきたいと考えています。